2024年6月28日

学校法人三幸学園
大宮ビューティー&ブライダル専門学校
校長 岩崎 和友 殿

学校関係者評価委員会
委員長 吉野 秀樹

学校関係者評価委員会実施報告

2023年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 吉野秀樹 (株式会社 La Blanche)
- ② 高橋健二 (株式会社エムスラッシュホールディングス)
- ③ 江口怜那 (第12期卒業生)
- ④ 岡本朋美 (在校生 岡本彩花 保護者)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024年6月28日 (会場 大宮ビューティー&ブライダル専門学校 5号館 203教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023年度 学校法人 三幸学園 大宮ビューティー&ブライダル専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小倉 裕子

学校関係者評価委員会委員長：吉野 秀樹

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

学校の規模が大きくなり、新しい教員も増え、後輩育成に関してや、学生指導の統一などの課題が多くなった。改めて生徒指導の「基本」を徹底するという目標を昨年に続き掲げて行った。目標を全体会議等で全教員へ浸透させ、全教員が生徒を成長させるための教務運営を実施した。また、学校行事、就職指導、授業などを連動させ、『素直な心・感謝の気持ち・高い意欲を持ち続け、自ら考え自ら行動することで、社会に貢献する人材を育てる』ことを意識した教務運営を行った。広報活動では教員ごとに歩留まり・新規動員などの担当を立て、広報方針を少人数で決定し全メンバーへ発信する形式をとりました。それによって課題解決がスムーズに進み、結果的に昨年度に比べ多くの新入生の入学に繋がった。また就職活動では、美容師・メイク・ネイル・エステ・ブライダルの各分野で順調に内定をいただくことができた。企業やサロンとの連携も年々増えており、多くの卒業生の活躍にも繋がっている。今後は、在校生・卒業生が後輩に本校を勧めたくなるような教務、就職指導を行う必要があり、次年度に向けてさらに底上げした教務・広報活動を行い、より良い学校運営が必要になると感じている。

② 学校関係者評価委員会コメント

(吉野委員)

自社へ入社した貴校の卒業生が、先日イベントを開催する際に「担当をしたい」と立候補してくれた。とても前向きで頼もしかった。学校規模が大きくなっても今後も学校理念や教務運営、先生方の思いを伝えてほしい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

ビューティー分野、ブライダル分野共に学校の理念、目的、育成人物像は業界ニーズに向け方向付けをされており、明確に生徒、外部へ提示している。生徒へは入学直後の研修や2年間の就職対策、学校行事等で周知をしており、保護者に関しては、オンデマンド動画にまとめ入学前に配信を行った。浸透度でいうとまだまだ課題感がある。関連企業についても、訪問や企業連携を通して周知していきたい。

② 今後の改善方策

今後さらに保護者への理解を深める為に、入学前に対面での保護者説明会を実施。関連企業に関しては就職ガイダンスに絡めて学校運営の説明会などを実施。一方的な情報発信ではなく、相互に情報交換ができ、理解しあえる関係性の構築を進めていきたい。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(高橋委員)

学校の理念は、自ら話す機会が無いと意識ができない。学校を代表して話す機会を設けることが大切。

(江口委員)

在学時はオープンキャンパススタッフを行っており、そこで学校理念を話す機会があったので把握していた。ただ、クラス全体が把握しているかという曖昧なところがある。親とも学校理念を話す機会はありませんので、親も把握はしていないと思う。

(岡本委員)

娘がトータルビューティー科を卒業して改めて美容科に入学する際、別の学校も気になったが先生方の手厚い指導があり、安心して通わせられると思いここにまた決めた。ただ、保護者として学校理念は把握できていないので、周知は必要。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

目的に沿った計画を基に事業計画を立てて運営をし、運営組織は年次ごとに組織構築し効率を図っている。外部への教務活動に関する情報は公開をされているが、周知や理解度は低いので周知活動が必要と感じる。情報システムの効率化も進んではいるが、まだ効率が悪い部分もあるので順次導入を進めていく予定。

② 今後の改善方策

教育活動の外部への周知を行ううえで、外部の情報も取り入れながら当校の取り組みも発信できるシステムや機会を増やす必要がある。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（吉野委員）

人事や給与の体制変更時は、変更に対する理由をしっかりと述べないと信頼関係を失う。今はインターネットで調べられる時代のため、自社と他社の比較も当たり前のようにできる。最低賃金も年々変化があるので、給与体制も変化があるのは当たり前。また、しっかりと努力や功績を評価する体制を整えるためにも、外部の方に入っていて、コンプライアンスや運営のアドバイスをいただくことは大切。

（江口委員）

就職活動時、雰囲気や職場環境を第一に考えていたが、それでも勤務時間や手当、給与は必ず見ていた。入職後に給与体制変更があれば説明も大切だが、入職時にも資格取得等による昇給があるのであれば前もって提示する必要もあると思う。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員的能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

学校理念、業界等に照らし合わせた教育活動は適正に行われ、資格検定の取得に向けた枠組みも構築は出来ている。またカリキュラムは教育課程編成委員会での意見を参考にし、業界の人材ニーズに照らした内容編成を行っている。ただ、多様化する生徒に対応するための研修、情報を取り入れられる機会はまだ不十分に感じる点も多く、教員の対応力を高めなければならない。

② 今後の改善方策

今後は生徒と関わる全教員に向けて生徒理解を深められる研修を実施。また、優秀な教職員を確保していくため、卒業生のキャリアステップとして教員という手段があることを浸透させていきたい。

③ 特記事項

美容科では VR を取り入れた授業を展開し、早 3 年目となる。初めて VR に触れる教職員へ使用方法の研修を何度も実施した結果、対象科目の教員が全員使えるようになった。多様化する生徒に対して教員の1つのツールとして日々授業を実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

(岡本委員)

以前娘が所属していたトータルビューティー科でも授業や学校生活面で多くのサポートをいただいていたが、昨年度から所属している美容科とのカリキュラムの違いに当初は慣れなかった様子。しかし授業だけではなく、授業外でも先生のサポートがあり、心強いと感じている。就職活動に関しても、定期的に就職ガイダンスを実施いただいております、多くの企業と交流を持てる環境だと感じる。今は「国家試験に受かりたい」という気持ちが大きくなっているので、美容科で勉強を頑張っているのだと親でも分かる。授業以外にもコンテストや作品撮りなどにも積極的に取り組んでおり、今後も多くのサポートをいただきながら資格取得・卒業を目指してほしい。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

ビューティー分野、プライダル分野ともに就職率の大幅な向上が図れている。ただ、退学率の低減は引き続き課題となっており、生徒の人間関係構築力を上げていくための施策を考えなければならない。また、卒業後のキャリア形成の効果を把握するためにも、卒業生の活躍がタイムリーに分かるよう、学校との繋がりを作る必要がある。

② 今後の改善方策

人間関係を構築する上でコミュニケーション能力が必要とされ、学生同士、卒業生、企業様など、様々な立場の方とコミュニケーションが取れる機会を設ける。また、卒業生を対象とした「同窓会 LINK」を、より有効活用してもらえよう検討をする。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（高橋委員）

退学する理由として、想像していた授業内容と実際に授業を受けた際のギャップがあると答える学生が多いのではないかと。就職後の離職についても同様の意見があり、環境が変わると必ず「想像」と「現実」のギャップが発生するため、顧客から対価をもらう仕事は1年目でも10年目でも、施術者は「プロ」なんだと意識付けをさせ、向き合せている。そういった想像と現実のギャップを埋めるために、事前説明の時間をさらに設ける必要がある。

（江口委員）

高校生のときに参加したオープンキャンパスと入学後のギャップについては、あまり感じなかった。入学後のオリエンテーションでもしっかり説明がされていたので、そこに沿った指導を受けても疑問にも感じなかった。何事も始める前の事前説明は大切だと思う。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

担任制で各クラスに担任がいる環境を作っているが、教職員のキャリアサポート力の平均化がなされていない点がある。就職活動では、学生本人への指導は図れているが、保護者との連携が取れていない面が課題。キャリア育成は学科により特有性はあるものの、概ね就職支援環境は整っている。

② 今後の改善方策

教職員のキャリアサポート力を向上させる為に企業訪問を行い、企業が求めている人材像を把握し、生徒達へのキャリアサポートを実施する。生徒が求める就職先、職種が幅広くなってきたことに対応するため、キャリアサポートのチームを作り、就職率の向上に取り組んでいる。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（吉野委員）

学生にとっては、就職後も、企業と保護者との連携の大切さを感じている。自社も保護者へ連絡をとる機会が少しずつ増えており、どのようなアプローチが良いか、卒業生の江口委員にも是非ご意見をいただきたい。

（江口委員）

電話は直接お話ができ相手の善意が伝わるが、多忙でもあるので手紙が一番良いと思った。保護者に、内定をいただいた企業の説明は伝えるものの、事細かく話をしていない学生が多いと思うので、内定先から手紙が届くと保護者は安心すると思う。

(岡本委員)

学生の生活環境への支援や、学生相談に関する支援体制は、十分に整備されている。本人が「行事の委員会に入りたい」「コンテストに出場したい」と希望したことに対して、学校側のサポートの手厚さを伺っており、安心している。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

生徒増加により、施設や設備の整備が必要。

海外研修については、時期を分けて内容の違うものを提案。

防災対策は整備されているが、定期的な意識付けの必要がある。

② 今後の改善方策

防災対策について、教職員会議での防災訓練や講習などを実施する。

学外実習に関しては、学生が希望する企業で実習を行えない場合があるので、引き続き協力体制を築けるように訪問等を行い、学校について理解を深めていただけるようにする。

施設、設備面については生徒の増加に合わせ今後整備を進める。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

生徒募集と入学選考は適正に行われている。教育理念である「技能と心の調和」の内容について説明する機会が少なく、教育方針の周知が課題。

② 今後の改善方策

ホームページ・パンフレット・オープンキャンパスでの広報活動を通して学校の教育方針を伝える機会の増加を図る。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（吉野委員）

自社でも求人募集方法が年々変化している印象がある。コロナ禍が明け、動きが毎年変わってきているため予測が難しいが、よく貴校のオープンキャンパス投稿を SNS で見かけることがあり、年間を通して SNS に力を入れていることが分かる。

（高橋委員）

小学生や中学生を対象に、美容に対する憧れや夢を早い段階から持ってほしい。実際の進路学習では「美容分野」が入っていないことがある。是非そこに美容分野を入れたい。企業として、中学生に対して職場見学をしに来てほしいと逆アプローチをして、実現予定。子供の頃からの憧れを抱いてもらうことにより、募集活動を活発化させ、退学防止にも繋げてほしい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

自己評価にもとづいた問題点の改善を図っているが教職員への周知徹底ができていない。

② 今後の改善方策

教職員へ継続的に法令遵守内容を伝え、実施方法についての問題点の明確な洗い出し、迅速な改善をする必要がある。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

産学連携を定期的に行うことができおり、生徒が外部へアウトプットする機会の増加と、地域貢献・社会貢献に関する活動をする機会が増加した。これからも定期的の実施できるような企業とのつながりを作ることが必要。

② 今後の改善方策

生徒に学びや、成長のあるボランティア活動の増加のために、地域・関連企業との関係性の継続と開拓を行う。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

社会の変化と共に、学生の気質や考え方などこの数年で大きく変化をしてきた。学校としてもオンデマンドやICT教育など物理的な変化もあり、今後一層の周知と管理の徹底を進めていく。そして今までよりも、保護者と連携し学生をサポートすることの重要性が高まってきているため、より良い関係を構築する機会を増やしながら、学校運営に努めていく。